

報道機関 各位

青森県健康福祉部保健衛生課長

## 腸管出血性大腸菌（O157）感染症の集団発生及びその予防について

八戸市内の保育園において腸管出血性大腸菌感染症（O157）の集団発生がありました。今回の事例では、重症者はでていませんでしたが、腸管出血性大腸菌感染症は、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症など重い合併症を引き起こすこともあります。つきましては、腸管出血性大腸菌感染症の予防対策や下痢などの症状が見られた時の医療機関の早期受診について、県民への呼びかけをお願いします。

## 1 集団発生

## (1) 概要

八戸市内の医療機関から八戸保健所に腸管出血性大腸菌感染症（O157）を発症した患者（八戸市内の保育園児）がいるとの届出があったことから、同保健所が当該保育園に対して調査を実施したところ、平成 28 年 7 月下旬から 8 月上旬にかけて園児 50 名及び職員 5 名が下痢等の症状を呈していることが判明した。

このため、無症状者を含む園児及び職員の検便を実施したところ、有症者 31 名（うち園児 28 名）、無症状者 32 名（うち園児 25 名）から腸管出血性大腸菌（O157）が検出された。

有症者の主な症状は、下痢、腹痛、発熱であったが、重症者はおらず、現在、全員、快復している。

本事例の感染経路は不明である。

## (2) 対応状況

## ① 保健所の指導

保護者及び保育園に対して二次感染の防止や早期受診について保健指導を実施した。

## ② 保育園の対応

保健所の指導に従い、施設の消毒及び園児の健康状態の確認を徹底して実施している。

## ③ 社会福祉関係施設への対応

県内全ての社会福祉関係施設に対して、文書により注意喚起を行う。

## 2 家庭における主な予防対策

腸管出血性大腸菌は、汚染された食品や患者や保菌者の便に汚染された物品（タオルやオムツ等）等を介して口から入ることによって感染します。次の予防対策を実施しましょう。

- ・帰宅時、調理前、食事前、用便後、おむつ交換後は、手洗い・消毒を徹底しましょう。
- ・便で汚染された衣類やオムツ等は、他のものとは別に洗濯しましょう。
- ・食肉は、中心部まで 75℃、1 分以上加熱して食べましょう。

また、下痢などの症状が見られた時は、早期に医療機関を受診しましょう。

報道機関用提供資料	
担当課・担当者	保健衛生課 感染症対策グループ 渋谷総括主幹
電話番号	内線 6279 直通 017-734-9284
報道監	健康福祉部 楠美次長 内線 6203

## 腸管出血性大腸菌感染症について

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌です。

### <症状>

- ・全く症状がないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるものもありますが、多くの場合、3～5日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う水様性下痢の後に、血便となります。
- ・発熱は、軽度で、多くは37℃台ですが、嘔吐や38℃台の高熱を伴うこともあります。
- ・ベロ毒素の産生により溶血性貧血、急性腎不全を来し、溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こすことがあります。
- ・小児や高齢者では、痙攣、昏睡、脳症などによって致命傷となることがあります。

### <感染経路>

- ・主に腸管出血性大腸菌に汚染された飲食物を摂取したり、患者の糞便に含まれる腸管出血性大腸菌が直接又は間接的に口から入ることによって感染します。

### <参考>

#### ○「腸管出血性大腸菌感染症」の報告状況（年次）

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
青森県	24人	68人	60人	28人	47人	66人 <sup>※1</sup>
全国	3,940人	3,765人	4,044人	4,149人	3,567人	1,473人 <sup>※2</sup>

※1 平成28年の報告は本事例を含む

※2 第31週（8月7日）までの報告の速報値

#### ○「腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！」（青森県庁ホームページ）

<http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/EHEC.html>